

# ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2025年3月3日(月)～9日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、主をみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。『みことばの光』は一冊(一ヶ月)430円(注文は栗原弥希姉まで)
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか?
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

3月3日(月)

今日の聖書日課：レビ 19:1～18

「イスラエルの全会衆に告げよ。あなたがたは聖なる者でなければならない。あなたがたの神、主であるわたしが聖だからである。

レビ 19:2

自分でがんばってきよくなるのではありません。きよいお方を見つめること。それによって聖なる者となるのです。自分で自分をきよくするのではありません。あなたをきよめようとされるお方におゆだねすること。そうするとあなたは聖なる者とされるのです。あなたが見上げるそのお方は、あなたがきよくないことをご存知であり、あなたのために赦しを用意してくださったお方。そのためのささげ物、いけにえ、神の子イエス・キリストを備えてくださったお方。天を仰げば、いつでも十字架のイエスさまがあなたを見つめておられます。

3月4日(火)

今日の聖書日課：レビ 19:19～37

あなたがたとともにいる寄留者は、あなたがたにとって、自分たちの国で生まれた一人のようにしなければならない。あなたはその人を自分自身のように愛さなければならない。あなたがたも、かつてエジプトの地では寄留の民だったからである。わたしはあなたがたの神、主である。

レビ 19:34

「かつてエジプトの地では寄留の民であった」。これはイスラエルの民が、からだで味わったことでした。あのつらさ、あのやりにくさを覚えていたので、この命令が心にすっと入って行ったことでしょう。では、こうした経験がない人はどうなのか? 寄留の民(外国人)が目の前にいるならば、尋ねてみましょう。「どんなことが、やりにくいですか?」と。「その人を自分自身のように愛する」とは、とても具体的なことなのです。

3月5日(水) 本日は祈祷会の日です。

今日の聖書日課：ルカ 9:51～62

イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」

ルカ 9 : 60

イエスに「わたしに従って来なさい」と言われた人が「まず行って、父を葬ることをお許してください。」と願ったとき、イエスが彼に語られたことば。「死人たち」とは、生きているけれど神の前では死んでいる、罪の中で霊的に死んでいる人たち。その人たちを生かすために「神の国（神の支配）を言い広める」のです。イエスはここで彼が父を葬ることを禁じてはいません。生きている自分たちの家族・親族・親しい人々に神の国を言い広めること。父を葬るということの中に、この要素があるかどうか、それが大切である、と言われたのです。

3月6日(木) 本日は英会話クラス。新年度からの教師ネイト兄がカレム兄とともに来られます。

今日の聖書日課：ルカ 10 : 1~16

そして彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手は少ない。だから、収穫の主に、ご自分のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」

ルカ 10 : 2

イエスが 72 人を指名してご自分が行くつもりすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた、その時に、開口一番言われたことです。まず「収穫のための働き手を送ってくださるよう祈る」こと。いつの時代でもイエスさまは弟子たちにこう言って遣わされるのです。宣教とは、その相手が救われるだけでなく、その人が収穫のための働き手となることがゴールなのです。いつの時代でも、そう、今のこの時代でも「収穫は多いが、働き手は少ない」のです。

3月7日(金)

今日の聖書日課：ルカ 10 : 17~24

しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。

ルカ 10 : 20

イエスが二人ずつ遣わした 72 人の弟子たち。彼らがそれぞれのところからイエスのもとに帰って来て喜びの報告をしました。そんな彼らにイエスが語られたことば。それが冒頭の聖句。なによりもまず第一に喜ぶべきこと、それは「あなたがたの名が天に書き記されている」こと。かつては自分も、悪霊の支配の中で滅ぼされるべき者であったのに、神が自分の名を天に書き記してくださった。あわれみによって。この喜びをいつでもどこでも持ち続けましょう。そこからすべてが始まるのです。

3月8日(土)

今日の聖書日課：ルカ 10 : 25~42

この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

ルカ 10 : 36

「私の隣人とはだれですか。」とイエスに尋ねた律法の専門化にイエスは一つの話語られ、最後にこう言われたのです。「あなたの隣人を自分自身のように愛する」(27) とは、「隣人となる」ことなのです。

3月9日(日) 本日の礼拝説教箇所：Ⅱテモテ 1 : 1~7「神の賜物を燃え立たせて」

和歌山聖書教会の鍛冶直紀兄がメッセージを語ってくださいます。直紀さんの奉仕を感謝し、歓迎しましょう。牧師は岸和田の早朝と和歌山の主日礼拝で説教します。